



初日の出に思う

校長 越智 宏明

2025年が幕を開けました。

新年明けましておめでとうございます。旧年中、保護者、地域の皆様におかれましては本校の教育活動にたくさんのご支援とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。大原中学校は今年で開校72年目を迎え、大きな変革の時期を迎えております。今年度も生徒を主体としながら、教職員、保護者、地域の皆様と協働しながら「これからの大原中学校の在り方」を創造していければと考えております。本年もよろしく願いいたします。

さて、今までにない新しい大原中学校を創造するために、今年は、私自身が今までやったことのないことに挑戦してみようと考えました。・・・とは言っても何をすればよいかすぐに思い付く術もなく、まずは元旦に学校で初日の出を拝もうと考えました。

日の出前、普段以上に凍える寒さでした。しかしその寒さの中にも何か新しいものが始まるという緊張感、もっと言えば神聖なオーラが漂っているようにも感じられました。6時30分、学校に到着。東の空は既に薄明るく、校舎の東側壁面は鮮やかな朱色に染まっていました。恐らく今年最初に鍵を開けて校舎の中へ。当然のことながら校舎内はひっそりしていて、パタパタという上履きの足音がそこかしこに響き渡ります。中央の階段を昇って1年生のフロアへ。あるクラスにお邪魔して、「その時」が来るのを一人待ちました。

6時51分、東側に広がる住宅街が突然目映い一条の光に覆われ、その中心が渦を巻いたかと思うと、みるみるうちに盛り上がり、そこからあまりにも神々しい何かがその姿をゆっくりと現したのです。息をするのも忘れてしまう、永遠とも感じられる一瞬。そしてその神々しい何かは尚も光の渦を巻き続けたかと思うと、みるみるうちにその全身をさらけ出し、空高く昇っていったのです。

ご来光を拝みながら、「今年は何でも出来る!」という気持ちになりました。そして、そのために必要なことを三つ考えてみました。

- ① やりたいことは口に出してみる
- ② やりたいと思ったら行動に移してみる
- ③ 仲間をつくる

やりたいことを心の中で願うだけでは、それはいつまでも「願い」の領域を出ることが出来ず、結局は「願った」だけで終わることが多いようです。失敗を恐れずに行動してみる。そしてその行動の最初が思いを口に出してみることではないでしょうか?多くの人に自らの思いを語り続けることで自分の思いに共感してくれたり興味をもってくれたりする仲間が現れるかもしれません。仲間が現れた時初めて、「願い」が「実現」に向けて舵を切るように思うのです。

大正12年、関東大震災が発生した時の内務大臣で東京市長も務めた後藤新平は、震災後、国民を主体とした帝都復興計画をぶち上げました。そしてその実現のために、何と13億円もの復興予算を政府に要求したのです。当時大卒サラリーマンの平均月収が60円という時代。あまりのスケールの大きさから彼は、「大風呂敷(大袈裟でいい加減なことを言う人)」と揶揄されました。しかしそれでも後藤は信念を曲げず、逆に彼を支持する人が現れるようになり、この帝都復興計画は、遂に実現の運びとなったのです。初日の出を拝みながら、何となく今年の大原中学校と後藤新平の生き方が重なりました。今年も失敗を恐れずに力強く挑戦を続けていきたいものです。

初日の出の写真をホームページにアップし、学校を出ようとすると、丁度初日の出を拝んだ帰り道の3年生の生徒とご家族にお会いしました。初日の出に新年の誓いを立てた直後、これからの未来を創る生徒に会えるなんて! 今年が良い年になりそうです。



元旦の校舎を朝陽が鮮やかに染めていきます。今年が皆さんにとって、希望に満ちたよい年となりますように!